

2021. 2. 4 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

新進気鋭の研究者による知の饗宴
2020年度 国際言語文化研究所 リレー講座（オンライン）
日時：2021年2月18日（木） 10:00～、13:30～
2月19日（金） 13:30～、16:30～

立命館大学国際言語文化研究所は、2月18日（木）、19日（金）の2日間、若手研究者によるリレー講座を開催いたします。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2日間のオンライン（zoom）講座として実施いたします。

本研究所では、言語や文化を既存の枠組みの中で理解するのではなく、より広い視野で言語研究や文化研究の可能性を追求していくことを目指し、様々な研究活動を行っています。

4幕で構成される今回の講座では、新進気鋭の研究者が登壇し、言語と文化をめぐる最新の研究をもとに論じます。学外からも、『野中モモの「ZINE」 小さなわたしのメディアを作る』（晶文社）を昨年出版された翻訳家・ライターの野中モモ氏、マードック大学教授で日本近世文化史を専門とする森山武氏らをお招きし、多方面からお話しいたします。

なお、当日はオンライン画面上で手話通訳と文字通訳を同時に表示いたします。

記

日 時	2021年2月18日（木）	第1幕	10時00分－12時00分
		第2幕	13時30分－15時30分
	2021年2月19日（金）	第3幕	13時30分－15時30分
		第4幕	16時30分－18時30分

会 場：オンライン（zoom）開催

内 容：別紙をご覧ください。

参加費：無料（要事前予約）

右記 URL よりお申し込みください。 <https://forms.gle/bteY9bcnomKMdGj2A>

定 員：各回 1,000 人 ※定員に達し次第、受付を終了いたします。

その他：手話・文字通訳あり

主 催：立命館大学国際言語文化研究所

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学国際言語文化研究所 担当：乾・木下

TEL.075-465-8164

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/>

【1日目】2月18日(木)

第1幕[10:00~12:00] メディアとしての風景と地域の記憶

なにかとなにかをつなげ伝えるメディアとしての風景はいかに地域の記憶を紡ぎあるいは一定方向に固定化するのか、はたまたそのような風景の蓄積や継承は地域社会やひとびとの生活になにをもたらすのか。近代の東京および戦後の沖縄を題材に探る。

講演1 「近代の東京の郊外」

橋本 真佐子(立命館大学大学院 先端総合学術研究科一貫制博士課程)

講演2 「仲座久雄と花ブロッカー戦後沖縄におけるコンクリートブロック造の装飾的展開」

磯部 直希(多摩美術大学 美術学部)

司会 住田 翔子(立命館大学 産業社会学部)

第2幕[13:30~15:30] 書いて配って世界を変えるーzine・ミニコミ・フェミニズム

かつて草の根の女性運動において女たちをつないだミニコミ。そして SNS 全盛の現在、若者から新たな注目を集めるzine。この講座では、1960-70年代のミニコミと今日のzineの比較検討を通じて、フェミニズムの歴史と現在を考える。

講演1 「ZINE という選択肢ー個人と個人をつなぐ小さなメディア」

野中 モモ(翻訳者・文筆業(フリー))

講演2 「フェミニスト・コミュニティ・アクティヴィズムとしてのジンとその実践」

村上 潔(立命館大学 衣笠総合研究機構生存学研究所)

講演3 「フェミニズム以前のフェミニストたちー1950-60年代岩手女子青年たちの生活記録誌を読む」

柳原 恵(立命館大学 産業社会学部)

【2日目】2月19日(金)

第1幕[13:30~15:30] ヴァナキュラーな言語と文化ー中世イギリス、江戸時代の越後、植民地時代のキューバを例にー

本講座では、時間軸と空間軸をダイナミックに横断し、中世の英語文学、雅俗が混在する江戸の板本、キューバの黒人仮面劇の分析を通して、中心と周縁、筆記言語とヴァナキュラー言語の複雑な関係や、ヴァナキュラー言語の持つ文学的可能性について考察する。

講演1 「中世のヴァナキュラー言語としての英語と英語文学の出発」

岡本 広毅(立命館大学 文学部)

講演2 「混淆する雅俗、重層する都鄙ー江戸板本の作者・読者と『北越雪譜』(1837)」

森山 武(マードック大学)

講演3 「キューバのブッフオ劇におけるヴァナキュラー言語、およびナショナリズムの発現」

安保 寛尚(立命館大学 法学部)

第2幕[16:30~18:30] 戦後東アジアをめぐる移動の生活史

本講座では、中国帰国者と在日コリアンの移動経験と記憶を取り上げ、東アジアに跨る自らの出自や帰属意識をどのように確認しているか、また世代を越えてどのように位置づけているか考える。

講演1 「中国帰国者の歴史をめぐる一世・二世からの継承」

山崎 哲(一橋大学大学院 社会学研究科博士後期課程)

講演2 「日本と朝鮮半島における人びとの移動ー日朝韓に跨る親族の事例から」

竹田 響(京都大学人間・環境学研究科(文化人類学分野)博士後期課程)

コメント 佐藤 量(立命館大学 生存学研究所 客員協力研究員)

※敬称略